

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	友野 聡子	所属	宮城学院女子大学 発達科学研究所
研究会等名称	奥羽ネガティブ心理学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください）</p> <p>会員 6名（うち認定心理士1名）（オンデマンド形式のため登壇者のみ） 非会員 1名（うち認定心理士0名）（オンデマンド形式のため登壇者のみ）</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください）</p> <p><目的> 本研究会では、人々のネガティブな心理に関心のある多様な領域の東北地方の心理学研究者が中心となり、研究集会や読書会などを通し、研究の視野を広げることが目的としている。</p> <p><実施内容と成果> 2021年度の研究会において実施された内容は、オンデマンド開催による研究集会のみであった。人々のネガティブな心理に関心のある研究者がそれぞれの研究テーマに関する発表を行い、参加者と議論を行った。研究集会を年度内に1回開催したが、日本心理学会第85回大会の公募シンポジウムにおいて、公開の研究集会として開催した。</p> <p>以上の研究集会から得られた成果は、とても多かった。第一に、心理学の研究交流の機会が少ない東北を起点に本研究会を開催したことで、東北所縁の心理学研究者どうしで刺激を与え合うことができた。開催回数は今回もコロナ禍の影響で1回のみとかなり少なくなってしまったが、現在は他地域在住であるものの東北に所縁のある者などがオンデマンド開催の利点を最大限生かして意欲的に動画を視聴し、リアルタイムではなかったが密度の濃い議論を行うことができた。第二に、研究集会において、活発な議論がなされ、各自の研究の視野を広げることができた。特に、社会、感情、パーソナリティ、犯罪など、さまざまな専門領域の心理学研究者に加え、近接分野の学問領域の研究者も集い、多様な議論がなされたことは、本研究会の成果の大きな特徴であったと言える。第三に、9月に公開の研究集会「社会生活における Positivity のネガティブサイド」を日本心理学会第85回大会の公募シンポジウムとしてオンデマンド形式で開催し、ネガティブ心理学研究の今後の展開について議論を深めることができた。</p> <p><将来計画> 以上に示したように、研究会自体の成果としては大きかったものの、昨年度は以前と比較して開催回数がかかり減ってしまった。そこで、直近の将来計画としては、まずは開催回数を増やすべく、オンラインを最大限活用してリアルタイム形式の研究集会を複数回開催することを目指す。</p>		

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
公益社団法人日本心理学会 奥羽ネガティブ心理学研究会				
研究集会開催日：2021年9月1日(水)～9月8日(水) (オンデマンド形式)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	上原 俊介	鈴鹿医療科学大学	○	
2	友野 隆成	宮城学院女子大学	○	
3	橋本 剛明	東洋大学	○	
4	大沼 卓也	近畿大学	○	
5	松崎 かさね	鈴鹿医療科学大学		
6	中川 知宏	近畿大学	○	
7	福島 治	新潟大学	○	○
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				

(様式5)

2022年4月28日

日本心理学会研究会 2021年度会計報告書

研究会名称 奥羽ネガティブ心理学研究会

研究会番号 21007

助成金額 ¥15,000

年月日	項目	金額
2021年9月1日	講師謝礼(1名)	¥15,000

支出合計 ¥15,000